

自然教育園の動物目録の追録と 稀種動物の目撃記録 (1)

久 居 宣 夫*

Notes on Newly or Rarely Observed Animal Species in the Institute for Nature Study (1)

Nobuo Hisai*

は じ め に

自然教育園の動物目録については、1984年にそれ以前の記録も含めてまとめられている（国立科学博物館附属自然教育園，1984）。しかし、その目録作成のうちに記録がもれた種や、その後新たに生息が確認されたり、目撃された種も少なからずいる。

ここでは、これらの種について若干の解説を加えて記録する。また、園内での稀種の目撃などについても合わせて記録し、基礎資料としたい。

なお、学名、和名などは前述の目録に準拠した。また、日付は目撃あるいは捕獲した年月日を（日付のないものは通常に見られることを示す）、カッコ内は目撃・捕獲者名を示し、日付のみの場合は筆者の確認によることを示す。

本報をまとめるにあたり、種々の助言を賜わり、また快く同定をしてくださった東洋大学の犬野正男氏をはじめ、元都立衛生研究所 松本浩一氏、都立大学 内田臣一氏、国立科学博物館 上野俊一氏、また種々の情報を提供していただいた方々に感謝の意を表する次第である。

1. 追 録

Mollusca 軟体動物門

Bivalvia 二枚貝綱

Anodonta woodiana japonica Clessin カラスガイ 1984.8.24 (?)

この大型の二枚貝は浚渫工事のうちに、ひょうたん池から1個体のみ採集された。浚渫後に再び同池に放逐する。

* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum

Arthropoda 節足動物門

Crustacea 甲殻綱

Asellus hilgendorffii Bovallius ミズムシ

園内の水系, 特に水路に普通に生息。汚水生物学では α 中腐水性の指標種で, かなり汚れた水域に多く出現する。松本浩一氏同定。

Armadillidium vulgare Latreille オカダンゴムシ

建物周辺および園内に広く分布。

Armadillo dorsalis Iwamoto セグロコシビロダンゴムシ

園内の林床に広く分布するが, 園路から離れた林内に多い。オカダンゴムシよりは個体数は少ない。自然度の高い緑地の指標とされている。大野正男氏同定。

Porcellio sp. ワラジムシの一種

園内の林床に広く分布し, 個体数も多い。大野正男氏同定。

Geothelphusa dehaani White サワガニ 1984.9.1, 1984.9.6

三叉路から“物語りの松”間の路上を歩行中の個体を観察。これより以前にも同地域付近で見かけたことがあり, ひょうたん池の湧水地あたりで繁殖している可能性がある。入園者が持ち込んで放逐したものか, 以前から生息していたかは不明。

Insecta 昆虫綱

Nemoura sp. オナシカワゲラの一種 1986.5.17

園内では, サンショウウオの沢の湧水地から水生植物教材園からの水路との合流点付近まで広く分布する。特に, 幼虫は川底に落葉・落枝が堆積した部分に高い密度で生息している。本種はおそらく丘陵地の小流に多い *N. fulva* Sāmal オナシカワゲラと考えられる。成虫は晩春から初夏に流れ近くの草上に普通。カワゲラ類は一般に清水性の指標され, 郊外の谷川に多く生息しているが, 本種のように都市緑地の水系に生息している例は最近では稀と思われる。本種を都立大学の内田臣一氏に同定依頼した時点では, 成虫が得られていなかったため種の同定は不可能であった。近々, 同氏に成虫による再同定を依頼する予定である。

Phryganopsyche latipennis Banks マルバネトビケラ 1984.10.16

本種は植物片や砂粒で筒巣をつくるトビケラである。幼虫のみサンショウウオの沢より確認されている。生息場所は川底に落葉が堆積した所が多い。密度は低く, 湧水地付近から流れの中程ぐらいの間に点々と生息する。

Molanna moesta Banks ホソバトビケラ 1986.8.12

本種は砂粒できわめて特徴的な形の筒巣をつくる。前種と同様にサンショウウオの沢で幼虫のみ確認されている。生息場所はかなり限定されており, 現在のところ湧水地付近でのみ観察される。

トビケラ類もカワゲラ同様, 現在の都市緑地では生息が稀となった昆虫群であり, 本園に生息していることはひじょうに貴重な記録であるといえよう。

Xylota formosa Butler キバラモクメキリガ

インセクトarium内で多く発生。主としてタイアザミなどを食草にしている。この施設を建設したおりに入れた客土に混入して運びこまれたものか, 食草類を園内から移植したおりについてきたものかは不明。1952年発行の動物目録第1集“昆虫綱”に本種の記載はない。

Baudia nigriceps Morawitz クロズカタキバゴミムシ 1983.5.19

管理棟裏の松林より採集され, 国立科学博物館の上野俊一氏によって同定。同氏によれば, 都内の緑地で

は少ないとのことである。

Dixa sp. ホソカ的一种 1986.8.27

サンショウウオの沢で幼虫のみ確認。生息密度はかなり低い。

Vertebrata 脊椎動物門

Osteichthyes 硬骨魚綱

Rhodeus ocellatus Kner タイリクバラタナゴ 1984.8.21 (?)

ひょうたん池の浚渫工事のうちに、同池よりミヤコタナゴと共に1個体のみ捕獲され、東洋大学の東野正男教授によって同定された。本種は関東平野には広く分布しているが、自然教育園には自然分布しないものと考えられる。鑑賞用としてよく飼育されているところから、ペットとして飼育していたものを入園者によって放逐された可能性もあるが、移入経路は全く不明。

Carassius gibelio langsdorfi Velenciennes ギンブナ 1984.8.25 (草野晴美氏)

本種もひょうたん池浚渫のうちに1個体捕獲されたものである。体長は約13cmであった。フナについては、“国立自然教育園概説”(文部省科学教育局, 1954)に同園で採集される魚類としてコイ・フナなど5種が記録されているのが最初らしい。その後、1963年発行の“国立科学博物館付属自然教育園動物目録”にもフナなど同じ5種の魚類が記録されているが、これは上記の記録をそのまま収録したものと考えられる。なお、同目録に使用されている学名は *Cyprinus autatus* Linné である。フナ類の目撃記録は皆無に近いがこのギンブナはひょうたん池で細々と繁殖していたものかもしれない。

Aves 鳥綱

Dendrocopos leucotos stejnegeri Kuroda オオアカゲラ 1987.1.20 (萩原信介氏)

小鳥の森に飛来した個体を目撃。園内にはわずか1日だけで飛去する。

D. kizuki seebohmii Hargitt コゲラ 1986.7.6 (坂本直樹氏)

最初の目撃記録は、1986年7月6日、コナラ林においてである。その後はときどき園内で姿を見ることがある。

Bubulcus ibis coromandus Boddaert アマサギ 1984.5.4 (千羽晋示氏)

水生植物教材園で目撃。

Phalacrocorax carbo hanedae Kuroda カワウ 1986.4.15

水生植物教材園の丸太杭に止まっている1羽を目撃。その後の記録はない。

2. 稀種の目撃記録

(1) 昆虫類

Epopththalmia elegans Brauer オオヤマトンボ 1986.6.4 (矢野亮氏)

現業舎付近で、弱って止まっていた個体を捕獲。これとは別に、頼惟勤氏の1985年1月～12月の記録にも本種の生息が確認されている(頼, 1986)。

Protohermes grandis Thunberg ヘビトンボ 1986.5.25, 5.28 (矢野亮氏)

コナラ林および湿地で成虫を目撃。幼虫は肉食性の水生昆虫。

Parachauliodes japonica MacLachlan ヤマトクロスジヘビトンボ 1983.6.29 (桜井信夫氏)

北門付近の流路で幼虫を捕獲。前述のヘビトンボよりも水質汚濁に強いが園内ではヘビトンボよりも個体

数は少ないようである。

Sialis sp. センブリの一種 1986. 8. 27

サンショウウオの沢より幼虫を捕獲。1952年の昆虫目録には *S. japonicus* ヤマトセンブリが記録されているから、おそらく本幼虫も本種と思われる。

脈翅類の中でも、以上の3種は幼虫が水生であり、本園での記録は少ない。

Inocellia japonica Okamoto ラクダムシ 1985. 5. 22 (矢野亮氏)

武蔵野植物教材園より成虫1個体を捕獲。

Anthocharis scolymus Butler ツマキチョウ 1986. 4. 24, 4. 26

1986年4月24日に食草園で初見。その後、数日間建物跡地、武蔵野植物教材園などで雌雄とも目撃。1週間ほどで少なくとも10個体以上は観察された。本種は、1952年の昆虫目録に記録はあるが、絶滅したと考えられるチョウの一種である。本園で発生したものか、他地域から飛来した個体かは不明。

Dichorragia nesimachus Boisduval スミナガシ 1984. 9. 6

食草園のアワブキで幼虫を4個体捕獲。本種も絶滅したと考えられるチョウである。本園でアワブキが生育している場所は、食草園以外では武蔵野植物教材園に1本あるだけである。これまでに、これらのアワブキには食痕や幼虫が見られなかったことから、放蝶による繁殖の可能性もある。園内への放蝶と考えられる例はコノハチョウ (1979. 7. 26) がある。

Chasmodon benjaminii Guérin-Ménéville アオバセセリ 1984. 9. 2

本種もアワブキを食草とするチョウで、本園での記録はきわめて少ない。本種は上記以外にも、食草園のアワブキで特徴ある食痕が見つまっている。

Paralichas pectinatus Kiesenwetter ヒゲナガハナノミ 1985. 5. 16 (大野正男氏)

成虫は水辺に多く、本園ではイモリの池付近で見られている。幼虫は水生で、このなかまは山地清流に多く生息するところから、本種の分布も貴重な記録といえよう。

(2) その他

Gekko japonicus Dumeril et Bibron ニホンヤモリ 1986. 3. 29, 5. 8 (関口育宏氏, 白戸玲子氏)

本種は近年急速に減ってきた屋内性動物である。最近の記録では、管理棟内の休養室で清掃のおりにミイラ化した個体が見つかった例 (3. 29) と、東側階段を歩行している個体 (5. 8) がある。前者は標本にし、後者は記録後放逐した。

参 考 文 献

国立科学博物館附属自然教育園. 1984. 国立科学博物館附属自然教育園動植物目録. 118pp.

文部省国立自然教育園. 1952. 国立自然教育園動物目録, 第1集昆虫綱. 42pp.

文部省科学教育局. 1954. 国立自然教育園概説. 42pp.

頼 惟勤. 1986. 自然教育園の蜻蛉成虫観察報告 (1985年度) 特にホソミオツネントンの行動. Tombo, 29(3/4): 107-110.

自然教育園. 1963. 国立科学博物館附属自然教育園動物目録. 13pp.